

函館工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	マネジメントⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0424		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	物質環境工学科		対象学年		5		
開設期	前期		週時間数		1		
教科書/教材	「チェンジ・リーダーの条件」 (P.F.ドラッカー ダイアモンド社)						
担当教員	臼田 悦之,鳴海 雅哉,菅原 雅之						
到達目標							
1.社会的に責任のある組織の在り方について考察する。 2.効果的なトップマネジメント（戦略）の在り方について考察する。 3.ドラッカーのいう「イノベーション」について理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	社会的に責任のある組織の在り方について考察し、身の回りで実践しようとする。		社会的に責任のある組織の在り方について考察する。		社会的に責任のある組織の在り方について考察できない。		
評価項目2	効果的なトップマネジメント（戦略）の在り方について考察し、身の回りで実践しようとする。		効果的なトップマネジメント（戦略）の在り方について考察する。		効果的なトップマネジメント（戦略）の在り方について考察できない。		
評価項目3	ドラッカーのいう「イノベーション」について理解し、企画しようとする。		ドラッカーのいう「イノベーション」について理解する。		ドラッカーのいう「イノベーション」について理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達目標 (D-2) 学習・教育到達目標 (D-3) 学習・教育到達目標 (E-1) 函館高専教育目標 D 函館高専教育目標 E							
教育方法等							
概要	4年次「マネジメントⅠ」の内容を踏まえ、本授業では、P. F. ドラッカーのマネジメント論をより深く学ぶことを通して、社会・人間・文化について多面的・多角的に考察しながら、自己の在り方生き方を考えるとともに、組織の在り方、戦略の在り方について検討する。						
授業の進め方・方法	① 知識を行動に具体化する。 ・マネジメントの意義や課題について基本的な知識の定着をはかり、企業や病院等の組織の社会的責任について理解を深める。ただし、一般社会では知識量よりも行動が重視される。ゆえに、授業中に接した情報を知識に転換し、行動に具体化することを意識すること。 ② リーダーとしての資質を身に付ける。 ・哲学はものの見方や人間としての生き方を考える学問である。ただし、現代における人間の生き方の前提は、「行動に責任をもつこと」である。ゆえに、行動に責任を持つリーダーに求められる資質について意識すること。						
注意点	○ 学習上の助言 ・授業は講義だけでなく、毎時間、ペアワーク・グループワーク等を行う。 ・予習としてテキストの指示された部分を通読し、簡単な内容の要約を作成しておくこと。 ・新聞（全国紙が望ましい。また、複数の新聞を読むこと。）の政治・経済記事や社説を読む習慣をつけること。 ・テキストにある専門的経済用語等については、事前に調べておくこと。 ※JABEE教育到達目標評価：試験60%（D-2：50%、D-3：50%）、発表20%（D-3：50%、E-1：50%）、課題20%（D-2：50%、D-3：50%）						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	組織について①		授業内容を理解することができる。		
		2週	組織について②		授業内容を理解することができる。		
		3週	組織について③		授業内容を理解することができる。		
		4週	組織について④		授業内容を理解することができる。		
		5週	トップマネジメント（戦略）について①		授業内容を理解することができる。		
		6週	トップマネジメント（戦略）について②		授業内容を理解することができる。		
		7週	トップマネジメント（戦略）について③		授業内容を理解することができる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	イノベーションについて①		授業内容を理解することができる。		
		10週	イノベーションについて②		授業内容を理解することができる。		
		11週	イノベーションについて③		授業内容を理解することができる。		
		12週	イノベーションについて④		授業内容を理解することができる。		
		13週	イノベーションについて⑤		授業内容を理解することができる。		
		14週	イノベーションについて⑥		授業内容を理解することができる。		
		15週	前期期末試験				
		16週	答案返却・解答解説		間違った箇所を理解できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100
基礎的能力	30	10	10	0	0	0	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	30	10	10	0	0	0	50